

# 船小ハイブリッドパワー

## — 学校と家庭を結ぶ —

校長室だより No.4

“やさしく かしく たくましく”  
～ 本気と礼節の教育 ～

令和3年5月21日 文責:安生昌弘

### ◆ 大規模校ならではの英語教育

今年度 4 月から船引小学校の英語教育は大きく進化しました。英語専門の教員が、定員数(児童数によって法律で決められている教員の人数)に 1 名加えて配置されたのです。それによって 3・4 年生の英語活動(週 1 時間)と 5・6 年生の英語科(週 2 時間)合計 24 時間は英語専門の教員が授業を行っています。その役目は昨年度の育児休業から復帰した若菜円香先生(中学・高校の英語科免許所持)が担っており、新しく転入した市教育委員会派遣の元船引中英語指導助手(ALT) Jesse Cade(ジェシー先生)と共にチーム・ティーチング(T・T)で指導しています。つまり、中学英語科の授業スタイルに近い授業が実現できているのです。児童の英会話力の向上が楽しみです。



授業中の英語教室を訪れると、児童は先生や ALT の英語での指示や質問を理解して、活動したり英語で答えたりしていました。昨年度までの担任の指導もあってか、数多く市内中学校の英語科授業を見てきた私の目にも中学 1 年生の授業に比べて遜色無いものに映りました。英語専門の教員配置は、県内でも例は少なく 1 つの学校に配置されるには学年 4 クラス以上無いと実現しません。大規模校の強みです。

授業以外でも学校は、英語教育に力を入れています。学校の一日は放送で流れるアメリカの兄妹ポップ・デュオ“カーペンターズ”の名曲など様々な英語の歌で始まります。スクールバス通学の児童は、バスの中でも聴いています。BGM として聴いて英語の「耳慣れ」を図っています。下校時刻になると、昇降口から児童とジェシー先生の「See you.(さよなら、またね)」という声が聞こえてきます。Good bye(さよなら)よりも「あなたにまた会いたいよ」という優しい気持ちが表れている言葉だと分かれると「See you.」って良いあいさつだなと感じます。児童の口から良い発音の優しい英語の言葉が自然に出てくる学校を目指しています。

### ◆ 教科担任制を進めています

中学校に進学すると教科によって全て先生が変わります。完全教科担任制です。小学校は基本的に児童を良く知っている一人の担任が授業をする学級担任制なので中学進学時にその違いにショックを受けてしまう生徒もいます。このショックを“中 1 ギャップ”と言います。今年度から 5・6 年生では教科担任制を少しでも進めようと取組を始めました。上で述べた英語科の他に理科など 2～3 教科を担当以外の先生が授業をしています。先生の得意とする授業を受けられる、別の先生の個性を体験できる、色々な先生方の見方で自分を理解してもらえる等の良さもあります。これも大規模校ならではの取組です。教科担任制に加えて、船引中と教員間の連携も強めて“中 1 ギャップ”を極力少なくしたいと考えています。

学校と家庭がタッグを組み、一つ(ハイブリッド)になって2倍以上の力(パワー)で効果的に子どもたちを育てたいと願い、校長室だよりを『船小ハイブリッドパワー』と名付けました。